

〔大島特産園芸作物における生産振興技術対策〕

オオサヤエンドウ選抜系統の生産管理方法

小幡彩夏・大根田順子\*

(島しょセ大島) \*元島しょセ大島

---

【要 約】オオサヤエンドウ選抜系統は、銀黒マルチで栽培することで、2月の収量が増加する傾向があり、銀黒マルチを使用した場合に株間による収穫量の違いはほぼないことから、管理のしやすい株間25 cmでの栽培が適している。

---

【目 的】

大島事業所では2016年までに、収量性や品質等に優れる3系統のオオサヤエンドウを選抜した。この選抜系統を用いて最適な栽培資材や植栽密度などを調査し、生育や収量などに及ぼす影響について明らかにする。

【方 法】

大島事業所で選抜した3系統の中で最も収量性や品質に優れていた「No.19のI」を供試した。2017年9月20日にパイプハウス内の畝幅70 cmで各穴2粒播きし、2本立てとした。株間(20 cmおよび25 cm)とマルチ資材(白黒マルチと銀黒マルチ)を組み合わせた2区制の計8区で試験を行った。初開花、初収穫、収穫量、採種量、生育について、1区14株を調査した。なお、収穫は2018年2月までを行い3月からは採種を行った。

【成果の概要】

1. 発芽率はいずれの処理区も100%となった(表1)。また、各処理区で初開花日及び初収穫日の日付や節位は同程度であった。
2. 収穫量は、各処理区でほぼ差はなかったが、収穫盛期の2月では、白黒マルチ20 cmに比べて銀黒マルチ25 cmで収穫量が増加した(図1)。なお、下物率は各処理区とも全体の収穫量の2割程度であった(データ略)。
3. 平均莢長及び草丈は、各処理区で差はみられなかった(表2)。採種量についても、各処理区間で差はなかった。

【残された課題・成果の活用・留意点】

1. 栽培開始の10月は例年より日照時間が少なく、下位の花が落下し、開花及び収穫節位が例年より高くなった。
2. 銀黒マルチで栽培することで、2月の収量が増加する傾向があり、銀黒マルチを使用した場合に株間による収穫量の違いはほぼないことから、管理のしやすい株間25 cmでの栽培が適している。
3. 今後は、採取時の種子熟度が生育に及ぼす影響について検討する。

表1 マルチや株間がオオサヤエンドウの発芽や開花などに及ぼす影響

マルチ	株間	発芽率 (%)	初開花		初収穫		下物率 (%)
			日付	節位	日付	節位	
白 黒	20cm	100	11月9日	n. s. 10	11月25日	n. s. 10	25
	25cm	100	11月7日	10	11月21日	10	23
銀 黒	20cm	100	11月10日	10	11月25日	11	24
	25cm	100	11月10日	9	11月24日	11	24

同一列内において有意差なし

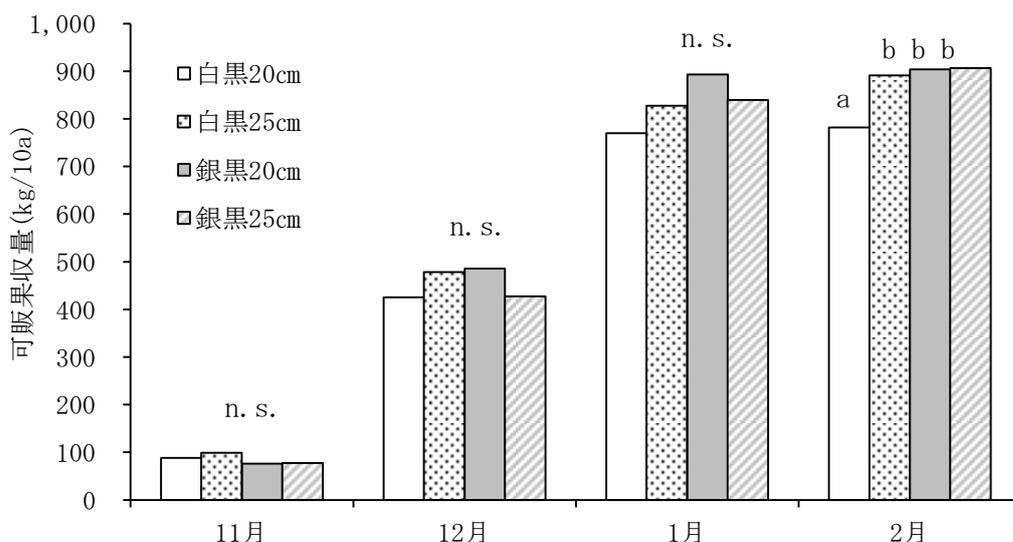


図1 マルチや株間がオオサヤエンドウの収量に及ぼす影響

Tukey-Kramer 法により異なるアルファベット内で有意差があり, n. s. は差がない

表2 マルチや株間が生育や採種量に及ぼす影響

マルチ	株間	平均莢長		草丈		採種量	
		(mm)	n. s.	(cm)	n. s.	(mL/m <sup>2</sup> )	n. s.
白 黒	20cm	107	n. s.	195	n. s.	446	n. s.
	25cm	109		201		390	
銀 黒	20cm	110		200		488	
	25cm	105		199		456	

同一列内において有意差なし